

先進事例

全国中央会では、中小企業や中小企業組合関係者が、新たな共同事業の実施や組織体制の見直し等を行う際の参考になるよう、都道府県中央会と連携し、毎年テーマを決めて共同事業等に先進的に取り組んでいる組合事例を収集している。昭和57年度より事業がスタートし、これまでに収録した組合事例は6,000組合を超えています。

毎年、詳細な調査・分析を行い、これをもとに組合事例のエッセンスを取りまとめ、報告書（先進組合事例抄録）及びホームページで公開しています。

讃岐石材加工協同組合

— 「庵治石ソムリエ」養成制度により、産地内外の人材を育成 —

住 所	(〒761-0121) 香川県高松市牟礼町牟礼2625-18		
電話番号	087-845-2446	URL	http://www.sanukisekizai.jp/
設 立	昭和45年1月	出 資 金	32,005千円
主 な 業 種	石材加工業	組 合 員	93人

■背景と目的

当組合では以前から庵治石の知名度向上を目的とした各種の取組みを構想していた。しかし、一般消費者に対する「知名度調査」を実施すると、「高級墓石」としての庵治石について関東圏ではほとんど無名に近い状況との結果が得られ「想定外かつショック」であった。このことを契機として「ブランドの確立」事業に本腰を入れることになった。

■事業・活動の内容と手法

長期的に本事業の効果を増大、定着させるためには、自らの想いを代弁してくれる理解者の存在が重要であるとの認識に至り、全国の石材小売店の経営者や社員を対象とした「庵治石ソムリエ養成制度」を発足させた。これは、庵治石および庵治産地について正しい理解と認識を持ち、販売プロフェッショナルとして拡販とPRに努めてもらう「庵治石ソムリエ」の養成を目的とする取組みである。

同制度の実施担当は産地3組合の青年部員で構成される「石翔会」である。平成24年度から取組みを開始し、現在では石材産地体験ツアーの実施が主たる内容である。この体験ツアーは毎回趣向を凝らした内容とするべく石翔会において工夫しており、平成27年11月現在、延べ参加者は100名を数える。同制度を運用するために、自らが産地PRパンフレットの作成や、接遇・説明の技能向上を行っていく過程で、石翔会各メンバーにおいては、自らの産地に対する愛着・理解が深まった。

本事業に取り組んだ当初、組合上層部には、産地PRの必要性に疑問を持つ意見もあったが、体験ツアー実施時に若手メンバーの取組みの姿勢を見せることで、徐々に理解が増していった。

■成 果

同制度を確立するためには、将来可能な限り早期に検定等の体制を整えていく必要があり、そのための取組みを急ぐ。本事業には20代の若い後継者が積極的に参画しており、将来に大いに希望の持てる展開になっている。また、体験ツアーで得られた各種のノウハウは、他の地域観光ツアーへ十分応用可能であり、庵治・牟礼地域の活性化に寄与する各種の事業への参画も視野に入れている。平成28年度には当地で「瀬戸内国際芸術祭」が開催されるため、これに関与するイベント等も実施したいとする。



採石場見学の様子



加工場視察の様子



事業・活動推進のキーファクター

「庵治石ソムリエ」の養成制度の発足・運営を外部委託せず自ら行ったことで、各メンバーの接遇・説明の技能向上が達成され、産地に対する愛着・理解も深まった。